

平成25年度 学校教育自己評価

北九州市立二島小学校

<4:よくできた 3:おおむねできた 2:あまりできていない 1:できていない で評価>

1 「二島小学校の学習規律」の定着について(児童の様子を振り返って)

評 価 項 目		本校教職員による 評価の平均ポイント	
①学習が始まる前に準備をしておく。	①1学期	2.9	
	①2学期	2.8	
	①3学期	3	
②チャイムに従って行動する。(チャイム席を守る。)	②1学期	3.2	
	②2学期	3.4	
	②3学期	3.1	
③正しい姿勢で学習する。	③1学期	2.8	
	③2学期	2.9	
	③3学期	2.9	
④ノートは右、教科書は左、筆箱は上に置く。	④1学期	2.8	
	④2学期	2.9	
	④3学期	2.9	
⑤手は、ひじを伸ばして真っ直ぐ挙げる。	⑤1学期	3.1	
	⑤2学期	3.3	
	⑤3学期	3.2	
⑥名前を呼ばれたら、大きな声で「はい」と返事をする。	⑥1学期	2.9	
	⑥2学期	2.9	
	⑥3学期	3.1	
⑦指名されて発言する。	⑦1学期	2.8	
	⑦2学期	2.9	
	⑦3学期	3.1	
⑧発表するときは静かに立つ。	⑧1学期	3.2	
	⑧2学期	3.5	
	⑧3学期	3.2	
⑨みんなが聞いているか、確かめてから発表する。	⑨1学期	2.5	
	⑨2学期	2.8	
	⑨3学期	2.9	
⑩最後まできちんとした言葉で話す。「です」「ます」	⑩1学期	2.9	
	⑩2学期	3.1	
	⑩3学期	3.1	
⑪声のものをさしを守る。(となり・グループ・全体)	⑪1学期	2.4	
	⑪2学期	2.6	
	⑪3学期	2.9	
⑫話をしている人に体を向ける。	⑫1学期	2.5	
	⑫2学期	2.6	
	⑫3学期	2.8	
⑬話は最後まで聞く。	⑬1学期	2.8	
	⑬2学期	2.8	
	⑬3学期	2.9	
⑭話を聞いたら、それに答える。「同じです」「付け加えます」など	⑭1学期	2.8	
	⑭2学期	2.8	
	⑭3学期	3.1	

書き方	⑮ノートには日付を入れる。	⑮1学期	3.1
		⑮2学期	3
		⑮3学期	2.9
	⑯鉛筆は正しい持ち方で持ち、ノートをおさえて書く。	⑯1学期	2.6
		⑯2学期	2.8
		⑯3学期	2.7
	⑰下じきをしいて書く。	⑰1学期	2.5
		⑰2学期	2.5
		⑰3学期	2.7

2 確かな学力の向上に向けた取組について〈思考力・判断力・表現力の育成〉〈言葉と体験を重視した学習指導〉

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 全ての教科等において、自分の考えを書く活動や伝え合う活動を位置付けた授業づくりと、ノート指導の充実とその評価の工夫に取り組み、児童一人一人の確かな学力の定着を図ることができた。	①1学期
①2学期		2.9
①3学期		3.1
(2) 家庭学習の内容と評価の工夫に取り組み、児童一人一人の基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図ることができた。	②1学期	2.9
	②2学期	3.3
	②3学期	3.2
(3) 体験的な活動や問題解決的な学習を重視し、児童自らが学び取っていく過程の中で知識・技能の習得を図ることができた。	③1学期	2.8
	③2学期	3.1
	③3学期	3.1

3 心の育ちを推進する教育の充実に向けた取組について〈日々の教育活動全体を通した児童一人一人の自己指導能力の育成〉

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 本気の学級目標をもとに目標設定し、常に学級目標を振り返りながら教育活動を行うことができた。	①1学期
①2学期		2.9
①3学期		3.4
(2) こころのアンケートの適切な活用及び家庭・保護者との連携を深め、一人一人の児童理解を深めることができた。	②1学期	2.7
	②2学期	3.4
	②3学期	3.5
(3) 学校の教育活動全体を通した道徳教育を推進し、思いやりの心、きまりを守る規範意識の醸成を目指して指導に当たることができた。	③1学期	3.1
	③2学期	3.3
	③3学期	3.4
(4) 心のノートを活用するとともに、書く活動や語り合う活動など自己の心情や判断等を表現する機会を充実させ、一人一人の自己指導能力の育成に努めることができた。	④1学期	2.3
	④2学期	2.8
	④3学期	2.9

4 特別支援教育の充実に向けた取組について〈全校体制による特別支援教育の充実〉

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 児童の実態を十分に把握し、一人一人の特性に応じた適切な指導・支援に努めることができた。	①1学期
①2学期		3.1
①3学期		3.4
(2) 特別支援学級の児童の実態や指導について、全教職員の共通理解を深め、連携を密にし、効果的な交流及び共同学習を行うことができた。	②1学期	3
	②2学期	3.2
	②3学期	3.4
(3) 通級指導教室担当教諭と連携し、アドバイスを生かすことで児童理解や個に応じた指導・支援の充実にも努めることができた。	③1学期	3
	③2学期	3.3
	③3学期	3.3
(4) 特別支援コーディネーターを中心とした特別支援校内委員会等(情報交換会・生徒指導部会)を活用し、全教職員の共通理解のもと支援の工夫にも努めることができた。	④1学期	2.9
	④2学期	2.9
	④3学期	3.2

5 教師の専門性を高める研修の推進について

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 「教えるプロ」としての専門性を高めるとともに、幅広い教養と見識を身に付けるための研修に積極的に取り組むことができた。	①1学期
①2学期		3.1
①3学期		3.3
(2) 児童の字力の向上を目指して、教材研究や指導・支援の工夫による授業の改善に努め、授業公開を基本とした研修(主題研究等)に積極的に取り組み、自らの授業力の向上にも努めることができた。	②1学期	2.9
	②2学期	3.1
	②3学期	3.3
(3) 全教職員で初任者及び若年教員の指導に当たり、お互いに高め合う学校風土の醸成にも努めることができた。	③1学期	2.8
	③2学期	3.2
	③3学期	3.4

6 発達の段階に応じた連続性のある教育の推進について

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 小中一貫・連携教育において「9年間を通じた学習指導・生徒指導の推進」に努めることができた。	①1学期
①2学期		3.1
①3学期		3.3

7 危機管理意識の向上について

評 価 項 目	本校教職員による 評価の平均ポイント	
	(1) 教育公務員としての規律を守り、信用失墜行為等の徹底した防止に努めることができた。	①1学期
①2学期		3.9
①3学期		3.7
(2) 「危機管理のさしすせそ」や「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」を意識した積極的な生徒指導、未然防止を重視した生徒指導に努めることができた。	②1学期	3.3
	②2学期	3.7
	②3学期	3.6